



車いすテニス 日本勢が優勝

テニスの四大大会のひとつ、全仏オープン車いす部門シングルス決勝が6月7日行われました。女子では上地結衣選手(31)が5年ぶり5度目の優勝、男子では小田選手(19)が3連覇を果たし、いずれも去年の夏のパリパラリンピックの金メダリストが大活躍しました。

上地選手は、6日に行われたダブルス決勝でも2年ぶりの優勝を果たし、2冠という快挙。先月、左の手のひらを痛め、シングルス決勝の前夜は夜遅くまで治療を受けていたといいます。試合後、上地選手は「新たなタイトルを取ることができてうれしい」と満面の笑みを見せました。



優勝トロフィーをかかげる上地選手(左)と、3連覇を果たした小田選手—いずれもA P



民間の無人船 月着陸に失敗

日本の民間企業「アイスペース」は6月6日、月への着陸を自給していた無人の船「レジリエンス」—写真—が着陸に失敗したと発表しました。うまく減速できず、月面に衝突したとみられています。

月の水や砂は、資源として利用できる可能性があり、世界の企業が技術開発を急いでいます。しかし、地球からおよそ38万km離れた月に、船を着地させるのは難しく、日本の民間企業で成功した例はありません。アイスペースは2023年にも着陸に失敗しています。

挑戦は、これで終わりではありません。27年に降に3度目の打ち上げを予定しています。最高経営責任者(CEO)の村田武史さんは、「課題をどう解決していくか、突き詰めていきたい」と話しました。



1人の女性が一生のうちに出産する子どもの数を示す「合計特殊出生率」も、2024年は1.15と過去最低。地方から若者が集まる東京は全国最低の0.96でした。

少子化の大きな原因は、結婚や出産する時期が遅くなってきていることです。理由は下のイラストのように様々ですが、国の研究所が2021年に行った調査で、妻が35歳未満の若い夫婦が理想とする数の子どもを持たない理由には「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が77.8%と最も多かった。



イラスト・楠本礼子

女性に子育ての負担が偏っているのも、少子化の原因の一つです。総務省が2021年に行った調査では、6歳未満の子どものいる夫婦が1日に家事や育児に費やす時間は、妻の7時間28分に、夫は1時間54分と大きな差がありました。夫婦が協力して育児をすることが大切です。

また企業も、家でも仕事ができるようにするなど子育てしやすい環境を整える必要があります。

経済、医療、介護… 社会支える人が不足

少子化が進むと何が問題なのでしょう。まず、働く人が少なくなれば、経済は成長しなくなり社会の活力がなくなってしまう。道路や水道管の建設など生活に欠かせない分野で人が足

りなくなれば、生活にも大きな影響がでます。また、医療や介護などの社会保障制度が維持できなくなる恐れもあります。例えば老後に支給される「年金」は、働く世代



が支払う社会保険料などでまかなわれています。働く人が少なくなれば年金はぐっと減ってしまいます。

少子化をどのように食い止めるか真剣に考え、政策を見直す必要があるのです。

韓国大統領に李在明さん

韓国で6月3日、大統領選挙が行われ、李在明さん(60)が新しい大統領に選ばれました。任期は5年間です。

前の大統領の尹錥悦さん(64)は、昨年12月に「戒厳令」を出し



李大統領はこんな人

- 1964年12月生まれ
- 貧しい農家の家庭で育つ。中学には通えず、6年間、工場で働いた
- 20代で弁護士になった後、政治家に
- 過激な発言から、「韓国のトランプ」と呼ばれたことも

て、兵士を国会に送り込み、政治活動を禁止しました。このことが憲法に違反したとされ、強制的に辞めさせられました。

これに伴って、選挙が行われました。李さんは「全ての国民に仕える大統領になる」と演説しました。

日本との関係 注目

気になるのは、日本との今後の関係です。李さんは日本を「重要な協力パートナー」と位置づけ、経済の分野などで協力していく考えを示しています。しかし、過去には日本に対して批判的な発言をしていたこともあり、本当に仲良くできるかどうか注目が集まっています。